

ChatGPT等生成AI活用検討プロジェクトチーム 第4回会議 議事要旨

【日時】令和5年10月19日（木）10：00～11：00

【場所】オンライン会議

【出席者】プロジェクトチームメンバー（若手職員22名）

1 ガイドライン・プロンプト集の概要説明

<ガイドライン>

- ・生成AIに詳しい弁護士法人が監修し、安全性と利用促進のバランスに配慮して作成
- ・入力不可の情報の範囲や、生成物を利用する際の著作権等の考え方について明示
- ・委託契約のひな型も併せて改正

<プロンプト集>

- ・ChatGPT等のGPTと呼ばれる言語モデルを対象としたプロンプト集（随時更新）
- ・プロンプト集は、ケースに応じたプロンプトのヒントとテンプレートにより構成
- ・基本はプロンプト例をコピペするだけで利用可能、アレンジのためのポイントも掲載

2 今後の進め方

<3本柱で生成AI利用を推進>

- ・環境整備、研修機会の提供など、利用環境を充実
- ・新たなコミュニティの立ち上げやシステム開発を試行するなど、利用方法を拡大
- ・県、市町での勉強会立ち上げや新たな取り組みの検討など、市町支援を展開

<プロジェクトチームの活動>

- ・定期会議はいったん終了、新たなコミュニティ（ヒョウゴ生成AIラボ）を立ち上げ、活動を移行
- ・関心のある職員が誰でも参加可能なコミュニティとし、活発な議論を実施

3 意見交換

<神戸大学 村尾教授>

- ・ガイドライン、プロンプト集ともに分かりやすく作られており、大変参考になる。
- ・職員の生成AI活用コミュニティを立ち上げるとのことだが、企業や大学が参加できる形を考えることも大切。企業や大学と連携して活用策を考えていくことが重要である。
- ・効果測定も重要。評価方法が難しいと思うが、広げるためには使ってどうだったかの評価が必要。

<エクサウィザーズ 大植取締役>

- ・ガイドライン、プロンプト集ともによくできており、押さえておくべきポイントが網羅されている。
- ・今後の利活用ではガイドラインを読み込ませ、誰でも問合せ可能なチャットボットの開発に挑戦してはどうか。
- ・生成AI活用にはテクニックより『検索ではなく、生成である』、『他責より自責（自分なりに試行錯誤して効果的な使い方を見出していく）』というマインドセットが重要である。

<PTメンバー>

- ・まずは使ってもらうことが重要であり、使ってもらうために具体的な活用例の横展開が必要である。
- ・生成AI活用するためには自分の仕事のやり方を見直す必要もあると考える。
- ・効果検証ではデータを用いて、効果を実感できるような可視化ができれば活用が更に進むのではないかと。

（以上）